

行政視察報告書

平成29年10月20日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 笠岡市立市民病院改革調査特別委員会

委員長 田口 忠義 (印) 副委員長 樋之津 倫子
委員 大本 邦光 委員 蔵本 隆文
委員 原田 てつよ

笠岡市環境福祉委員会

委員長 仁科 文秀 副委員長 大本 益之

随行 鈴木 健文 (事務局) 随行 遠田 秀数 (事務局)
随行 高橋 辰徳 (事務局)

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 広島県尾道市 公立みつぎ総合病院

住 所	広島県尾道市御調町市 124 番地
電 話	0848-76-1111
視察案件	地域包括ケアシステムの現状について
期 日	平成29年10月16日(月) 13時30分から16時30分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	公立みつぎ総合病院
視察目的	笠岡市民病院において「新市民病院改革プラン」を策定するにあたり、議会として病院改革に伴う調査を行うため。また、今後の市民病院のあり方について、近隣市町村の病院経営(地域包括ケアシステム)の視察を行う。

◎公立みつぎ総合病院（概要）

公立みつぎ総合病院は尾道市御調町を中心に周辺5市1町、人口約6万人を診療圏域とする地域の中核的総合病院です。

ICU（集中治療室）、無菌手術室、マイクロサージェリーをはじめとする高度医療はもちろんのこと、退院後は在宅医療・ケアを積極的に行い、患者本位の医療を提供しています。院内には回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、療養型病棟も設置し、地域のニーズに応えています。

一方、病院には行政部門である御調保健福祉センターを併設し、これらを核として介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム等の公立みつぎ総合病院保健福祉総合施設、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションを併設して地域包括ケアシステムを構築しています。

中でも寝たきりゼロ作戦の一環としての在宅ケア（訪問看護、訪問リハビリ等）や健康づくりには力を注いでいます。

◎寝たきりの多い町から少ない町へ

昭和49年より病院を核とした地域包括ケアシステムを構築、在宅ケアや「寝たきりゼロ作戦」を推進し、また「福祉の町」宣言を行い、長寿を喜び合える明るい活力に満ちた町づくりを進めてきた。

寝たきりゼロ作戦の状況と、保険・医療・介護・福祉のネットワークの現状がある。

◎保健管理センター開設まで「出前医療」と寝たきりゼロ作戦

「つくられた寝たきり」が非常に多かったため、どの様に防ぐかを考え、看護やリハビリという医療を家庭の中にまでもっていく、訪問看護や訪問リハビリを実施することにした。

これは看護やリハビリの「出前」であり、「医療の社会化」の第一歩でもあった。

現在御調町には公立みつぎ総合病院の保健師も含めて、16名の保健師（内常勤15名）がいる。

これら看護の出前に加えリハビリの出前を行うことにより、看護とリハビリに連携により、かなりの相乗効果が見られるようになった。

◎公立みつぎ総合病院

病院の特性を上げると、第1に高度医療を行う地域の中核的総合病院（第二次救急指定病院）であること、第2に回復期リハビリ病棟、緩和ケア病棟を併設していること、第3に病院と行政部門である保健福祉センターを核として地域包括ケアシステムを構築していること、そのために病院内に包括ケア連携室を設置していること、第4に在宅ケアと寝たきりゼロ作戦を実施していること、そのために保健医療介護福祉の連携統合を果たしていること。

◎保険福祉総合施設「地域包括ケアシステムを支える諸施設」

病院から車で数分離れた所にある「ふれあいの里」には、病院の一部である保健福祉総合施設が設置してある。県立の特別養護老人ホームと老人リハビリセンターが御調町に移管されたことに伴い、従来の公立みつぎ総合病院の施設として運営してきた介護老人保健施設などの施設群と併せて、総合施設としてスタートした。

- ・介護老人保健施設「みつぎの苑」
- ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）「ふれあい」
- ・ケアハウス「さつき」
- ・グループホーム「かえで」
- ・保健福祉総合施設付属リハビリテーションセンター
- ・デイサービスセンター

◎今後の展望

御調町における地域包括ケアシステム、特に寝たきりゼロ作戦と保健・医療・福祉の連携システムを中心としてきた。

全国的に見た場合、地域包括ケアシステムの構築を急がなければならない。そして行政・保健・医療関係者と福祉関係者、更に住民が加わってのネットワークづくりが急がれるべきである。従来の病診間・病院間連携は単なる「点」と「点」を結ぶ「線」の連携であったが、今後はこれらに行政と住民が加わった「面」の連携が必要となる。

◎公立みつぎ総合病院の経営

数年前までは35名程度の常勤医がいたが現在は25名程度となり医師確保に苦慮している。

経営については一般会計からの繰り入れは約4億円程度であるが、基準内繰入分のみで黒字経営を続けている。

岡山県内の自治体病院と比較しても経営状況は良い。・別紙笠岡市とみつぎ総合病院のH27年度経営指標参照。前述している全ての施設合算結果、病床稼働率も80%～90%で良好に推移している。+透析20ベットあり。

病院経営は病床稼働率を最重要視するが、本市では医師の採用活動をするものの常勤医が年々少なくなっており患者は減っている。

但し総合内科の標榜により少しは改善しているが、抜本的な改善は国難とみられる。

※手術・入院に繋げる為には、外科医・整形外科医の常勤医がそれぞれ2名以上は必要と思われる。

添付書類

視察資料 視察状況写真 名刺

